

## 君の「幸せの物差し」は何なんだ？

「この場所の広さは、東京ドーム10個分に相当します」

テレビ番組等で、レポーターがよく口にする類の言葉です。毎回耳にして違和感を覚えます。なぜなら、東京ドームの広さを実際に知っている人間を前提にした言葉だからです。

東京ドームを見たことも聞いたことない人にとってはイメージのしようがありません。もちろん、これは、いかに大きいか、どれだけ広いかを伝えるためのベストな表現なのでしょう。この場所の広さは、何m<sup>2</sup>です、何haです、何坪です、ではかえって大きさをイメージできないのも理解できます。

最近では、中学校の陸上の練習や大会、学校によっては体育祭などもデンカビッグスワンで実施することも多く、エコスタ球場等もプライベートでリーズナブルな値段で借用できることもあって、私自身、そのような大きな競技場に行く機会も当たり前になりました。

東京の国立競技場や各地の大きな野球場やサッカー競技場に足を運ぶことも、世間一般としては、決して特別で珍しくない時代だと言えます。

しかし、特に幼い頃、初めてそのようなスタジアムのような大きな場所を訪れると、味わったことのない感動や驚きを感じた、という人がほとんどではないでしょうか？

私が初めてプロ野球を観戦したのは、確か1970年の小1の時だったと記憶しています。祖父に連れられて、小4・小6の兄と、東京で働いている祖父の弟である大叔父さんの案内で、当時の後樂園球場（現東京ドームの前身）に巨人・阪神戦を観に行きました。田舎者の私にとって、東京の電車に乗ったのも初めてでしたし、あんな大きな施設を見たのも、そこにあんなにも大勢の人間をまとめて目にするのも初めてのことで、正直度肝を抜かれました。ここは別世界だと。

試合は、選手が米粒のようにしか見えない外野の一角での観戦でしたが、ナイター設備の光でこんな夜なのにスポーツが目の前で行われていることの不思議さを伴う、幻想的なショータイムでした。

当時大ファンであったジャイアンツは、エースの堀内が先発し、世界のホームラン王の王貞治が2本のホームランを打ち快勝。あこがれのスーパースター長嶋茂雄のかっこいい雄姿に酔いしれ興奮しました。

同様に、幼い頃、初めて訪れた遊園地は、それが地方のそれほどメジャーな遊園地でなかったとしても、こんなに広い場所があるのか、と感じた人は私だけではないと思います。しかし、成長して大人になるにつれ、このような、いくつもの大きく壮観な箱物やテーマパークへ行く経験を経た今となつては、あの後楽園球場や遊園地の時のような感慨を覚えることはもうありません。つまり当たり前のもものとして慣れてしまったのだと思います。

さて、話は変わりますが、今回は、まず、学校教育段階で、ものの量の把握と測定の方法の理解とはどのように進むのかについてお話しします。私、これでも数学科教師ですので。

小学校の算数では、2年生から「測定」という指導領域があります。長さ、広さ、容量（かさ）、重さという、保存性と加法性のある量についての「測定」の指導では、4段階の比較・測定の学習活動を設定しています。それは、①直接比較、②間接比較、③任意単位による測定、④普遍単位による測定です。

例えば、AとBの長さを比べます。どちらが長いかは直接比べればすぐわかります。これが①直接比較です。でも、例えば、比べるものが別々の場所にあつて直接比較ができなければ、別の同じ長さを有するCを媒介すればいいのです。AとBがそれぞれに別個に、同じ長さのCと比べた結果、 $A > C$ 、 $B < C$ であれば、 $A > B$ 。これが②間接比較です。

③の任意単位による測定とは、例えば、長さを図る単位として同じ長さの鉛筆を使うとします。Aが鉛筆5本分、Bが鉛筆4本分の長さだとしたら、 $A > B$ となるわけです。③が①②と違うのは、比較を数値化することで、大きさの違いを明確に“数”を使って表すことです。

つまり、こっちの土地が東京ドーム10個分、こっちの土地が東京ドーム8個分と測定できれば大小を比較できるわけですから、ここでは東京ドームが任意単位なのです。

しかし、人によって使用する単位が違ってしまえば、せっかく測定しても大きさを正しく伝え合うことはできません。そこで最終的に行き着くのが④の普遍単位なのです。

社会では、基本とする単位の大きさが的確にわかる必要があります。そのために、基にする単位として「普遍単位」があるのです。言わずと知れた、mm, cm, m, km, mL, dL, L, 日, 時, 分, 秒, g, kg などの国際基準の単位のことです。

このような測定領域は、算数の指導内容の中でも、日常生活に直結する内容です。しかし、日常生活で、ものを実測することとは別に、他人と比較したり比較されたり、何かを数値化されて測定されたり評価されたり、ということは、私たちにとって、どちらかとうとネガティブなイメージが付きまとうものです。容姿も、性格も、成績も、生き方も、できれば比べてほしくないものです。

先日、知り合いの保護者のお母さんから相談を受けました。内容は次のようなものです。

「息子が職業系学科の高校3年生で、ある人気職種の就職難関先の内定をもらって親子ともどもとても喜んでいました。ところが、別の普通高校に進学した中学時代の友人が、東京の私立大学へ推薦で進学するという話を聞いて、『羨ましい』と本人が言うのです。これまでの進路も親子で話し合っ決めてきたし、いい就職先が決まって安堵して喜んでいたのに、ちょっとせつなくて複雑な気持ちになりました」と。

因みに、この子が羨ましいと感じた具体的な理由は把握していません。自分はすぐ働くのに友達はまだ4年もの間は学生でいられるのか、ということなのか、東京で暮らせるのが羨ましい、ということなのか、はたまた他の理由があるのか。ただ、客観的な見解として、彼の友人がその大学を卒業した4年後に、この子の内定先に就職するのはかなり困難なことだけは言えます。

その時、即座に説得力のある返答ができなかったのですが、彼の取る選択肢は2つです。一つは、友人のことを心から羨ましがるのであれば、即座に内定を蹴って友人と同じような道を再構築すること。もう一つは、友達は友達、俺は俺なのだと思って、自分の進むべき道を信じて、自分の人生を充実させることだけに集中すること。

特に前者の選択には困難が付きまとい、保護者にとっても受け入れがたいものだとは思いますが、本人の人生は本人が決めること。後悔しない選択は本人が決断すべきことです。

個人的には、他人の人生と比較してそれを羨ましがる暇や余裕があるなら、現在や将来の自分の人生を充実させるべきことを第一に考えるべきだと思います。幸せを測定する物差しは、人それぞれに

違うのです。お金か、地位か、名誉か、権力か、自己実現か、家族の絆か、社会貢献か……。自分の考える「幸せの物差し」は自分だけの普遍単位として、他人と比べることのできない自分にとっての幸せのあり方を追求すべきです。

「井の中の蛙 大海を知らず」ということわざがあります。世間知らずを揶揄する言葉です。世の中には、大海を知る必要がない、知ろうにも知ることができない人だっているでしょう。狭い井戸の中だって、大海を知らなくたって、そこが居心地のいい場所だと考えている人も、そこがどこよりもすばらしい場所だと誰よりも自信をもっている人も、誰よりもそこが幸せだと感じている人もいるはず。それはそれですばらしいことだと思います。

そして、私が好きな言葉に、「立って半畳 寝て一畳」という言葉があります。人間一人が生きるには、起きている時は半畳、寝る時は一畳もあれば十分事が足りる。富や地位や贅沢ばかりをむやみに求めることは愚かなこと、という意味です。私は、人間の業や欲は果てしないものだが、実際には限界があるのだから、羨望や強欲をむき出しにして、必要以上に、他人を羨しがったり、嫉んだり、やっかんだり、無い物ねだりをして、あまり利口な生き方ではない、と解釈しています。

とは言え、例えば、かの野球の大谷選手の年俸の額が羨ましいと嘆く、彼と同年の薄給の身の長男も、そんなスーパースターの親である大谷選手のご両親はさぞや幸せだろうと思う自分も、まだまだ悟りが足りません。

かつて一緒に学校に勤務した、お世辞にも尊敬できるような人ではなかった先生が、何度も繰り返していた自慢話は、学生時代に長嶋茂雄の引退試合を直に後樂園球場で見たことがある、ということでした。自分もその感動的な瞬間に歴史の証人として立ち合いたかったなあと、正直さすがに羨ましく思いましたが、その先輩の生き方を羨ましく思うことは一切ありませんでした。

因みに、奇しくも、我が人生最大のスーパースター長嶋茂雄は、私の母親と同年同月同日の昭和 11 年 2 月 20 日生まれです。「我が巨人軍は永久に不滅です」あの引退の名セリフ通り、私の中の長嶋茂雄は、大谷選手はおろか、誰とも比較できない絶対的な存在、永久に不滅な存在です。しかし、巨人軍(ジャイアンツ)のことは、とうの昔に見放しましたけどね。